

# 英語〈中学校 第2学年〉 調査結果と指導の改善

## 1 結果の概要（全体の傾向）

よくできています。改善が見られます。

- 場所や動作を表す英語(under the chair, watching TV)を手がかりにして具体的な内容を聞き取ることができるかどうかをみる問題は、相当数の生徒ができています。 [2] 1 92.9% (H22 79.1%)、2 98.1% (H20 96.6%)
- ある程度まとまりのある英文を読み、具体的な内容を読み取ることができるかどうかをみる問題は、相当数の生徒ができています。 [4] 1 87.7% (H20 72.9%)
- 相手が話した内容が聞こえなかったときに「もう一度言ってください」と反応する表現を理解しているかどうかをみる問題は、相当数の生徒ができています。 [7] 2 86.4% (H22 45.9%)

こんな課題が見られます。

◆表現したい内容を、主語と動詞等を正しく使って英語で書くことに課題が見られます。 [9] 1 32.3% 2 26.9%

ナオキは、ALTのブラウン先生に今度の日曜日に行われる野球の試合を見に来てほしいと思っています。ナオキは、そのことについてEメールで伝えようとしています。<Eメールで伝えること>に書かれている1、2の内容が、ブラウン先生に正しく伝わるように、それぞれ英文を書いてEメールを完成させなさい。<Eメールで伝えること: 1【試合場所】ミナモ公園、2【開始時刻】9時>

Dear Ms Brown, I Next Sunday, Minamo Park, 2 nine. Please come and see our game. See you next Sunday. Naoki,

◆読んだことについて感想、賛否等を英語で書くことに課題が見られます。 [11] 39.6%

あなたは、留学生が意見交換しているインターネットの掲示板に、アメリカ人の中学生ケイトによる次のような書き込みを見つけました。これをよく読んで、ケイトの問いかけに対する自分の考えを、理由を含めて1文または2文の英語で書きなさい。

Hi, I'm Kate from America. I'm going to go to a school in Japan next month! I'm happy, but I'm worried about school lunch. I will not like it. I like box lunch, but my friend says, "School lunch is good." What do you think? Do you think school lunch is good, too?

## 2 指導改善のポイント

**ポイント1 文構造を活用する力を育成するために、まず、生徒が、主述関係を明確にして表現できるように指導しましょう。**

- 「伝え合う活動」(※1)と「理解・練習する活動」(※2)を長いスパンをかけて繰り返し行うことで、伝えたい内容と使うことができる表現を同時に考えながら表現できる力を育てましょう。(※1、2は次頁参照)

☆「伝え合う活動」の実施 (以下、活動の例)

自由対話 (話題の決定も生徒自身に委ねていく)  
・ 特定の話題についてペアで対話

Guess Who/What Game  
・ 提示された物、国、人物等を英語で説明

☆「理解・練習する活動」の実施

「伝え合う活動」での生徒の文法的な誤りを取り上げ、主語と動詞の決め出しなど文構造について指導しましょう。

(誤りの例) 「夏休みにサッカーの試合があった」を英語で言うとき、日本語の語順につられて“Summer vacation…”で言い始めてしまい、正確な英文で表現できない。

(指導の例) 「誰が?」「何をする?’’などと問うことで、主述関係に意識を置きつつ表現する習慣を身に付ける。さらに、板書等により、主述関係を含む文の構造を視覚に訴える指導も重ねて行うことで、当該意識の一層の定着を図る。

【例】授業における指導

☆主語と動詞の決め出しなどにつまずくことが考えられる問題を取り上げ「理解・練習する活動」を実施 (活動の例)

たくさんの鳥や、バドミントンで遊んでいる親子等が描かれている公園の写真を見て、英語で説明する。

☆①「まずやってみる」(伝え合う活動) → ②「つまずきについて練習する」(理解・練習する活動) → ③「もう一度やってみる」(伝え合う活動)の過程による指導の実施

- ・ ①の活動で生徒が使用と思われる言語材料の内、必要最低限のものだけ取り上げ、活動前に指導しましょう。
- ・ 問題解決的な活動となるよう、学習課題を創意工夫しましょう。

教師は、授業中できるかぎり英語を使いましょう。その際、正確な英語の使用に心がけましょう。生徒が、授業の中で英語に触れたり英語でコミュニケーションを図ったりする機会を充実することになります。

(※1) 「伝え合う活動」・・・実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動。当該活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。(下線は筆者)

(※2) 「理解・練習する活動」・・・言語材料について理解したり練習したりする活動。

(中学校学習指導要領解説 外国語編 「第2章 第2節 2 内容 (2) 言語活動の取扱い(ア)、(イ)」より)

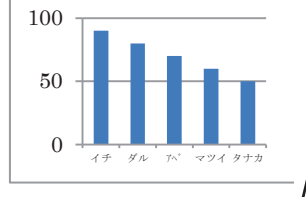
## ポイント2 聞いたり読んだりした内容について、自分の感想、賛否やその理由を書くことができるように指導しましょう。

### 1 「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考え等と結び付けながら、「書くこと」を通じて発信することができるようにするための指導を継続的に行いましょう。

【例】英文を読んで自分の考えを書いて表現する活動

●誠が日本の野球選手について調べたことを発表しています。

This graph shows how popular five Japanese professional baseball players are. Ichiro Suzuki is the most popular in Japan. Darubisshu Yuu is more popular than Shintaro Abe. But I like both of them. I love baseball.



内容理解を確認する T-F check や Q&A のみにとどまっていますか？

自分の考えをもてるような読み方を指導しましょう。

(1) 事前に読後の感想を求めることを示唆する。

【例】What do you think about Makoto's opinion? Why do you think so?

(2) 読後に内容理解を問う際、生徒自身の感想や考えを問う質問を加える。

【例】Who is your favorite player? / What do you think of Ichiro?

①目的意識をもたせるために、(1)のような質問も有効です。

②生徒自身の感想や考えを問う際に、(2)の例のように内容に関わる簡単な質問も有効です。

③全員が活動できるように、生徒の実態や学習段階に応じて、背景知識を豊かにするための教材を準備したり、前ページの「ポイント1」で示した指導を行ったりしましょう。

④感想やその理由等を述べる際、読み取った文章中の表現を活用するよう指導することが有効です。

### 2 「書くこと」の指導に加え、「話すこと」の指導を行う際も、感想や賛否に理由を添えて、つながりのある内容で表現できるようにするための指導を行いましょう。

こうした言語活動にとどまっていますか？

【生徒同士の対話活動例】

A: Do you like music?

B: Yes, I do.

A: Do you play the piano?

B: No, I don't.

結論を述べた後、理由や説明等関わりのある情報を付加して発話する指導を日常的に行いましょう。

理由等を併せて述べることで、このような効果が期待できます。

(学習指導要領解説 外国語編 p.18 「話すこと(ウ)」より)

○読み手の共感を得たり、説得力を高めたりする。

○示された理由に対して相手から新たな感想や意見を引き出す。

○感想や意見のやりとりを更に発展させる。

次のように、一文を付け加えるよう指導することで、コミュニケーションがより豊かになります。

○問いに対して否定の応答をした後、正しい情報を述べる。(例) Are you thirsty? -No, I'm not. I'm fine.

○具体を挙げたり、詳細な説明をしたりする。(例) Is it an animal? -Yes, it is. It's a koala.

○理由を述べる。(例) Are you going to talk about global warming? -Yes, I am. I think that global warming is an important topic.

○感想を述べる。(例) Do you practice *kendo* after school? -Yes, I do. It's fun.

○質問に関連させて話題を広げたり深めたりする。(例) Can we ski here? -Yes, you can. You can camp, too.

## 3 指導改善を進めるに当たって

◇次の資料に具体的事例が示されています。指導改善の資料として活用しましょう。

①特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」)(中学校)

(平成22年11月、国立教育政策研究所教育課程研究センター、[http://www.nier.go.jp/kaihatu/tokutei\\_eigo\\_2/index.html](http://www.nier.go.jp/kaihatu/tokutei_eigo_2/index.html))

②特定の課題に関する調査(英語:「話すこと」)(中学校)

(平成17年11~12月、国立教育政策研究所教育課程研究センター、[http://www.nier.go.jp/kaihatu/tokutei\\_eigo/index.htm](http://www.nier.go.jp/kaihatu/tokutei_eigo/index.htm))

③評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 外国語)

(平成23年11月、国立教育政策研究所、[http://www.nier.go.jp/kaihatu/hyoka/chuu/10\\_chu\\_gaikokugo.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatu/hyoka/chuu/10_chu_gaikokugo.pdf))